

高温に伴う農作物等の被害防止に向けた技術対策

令和5年4月7日
農林総合技術センター・農業振興課

【共通事項】

高温が続くことにより、農作物の生育ステージの急激な前進が想定される場合は、農作業計画の適切な見直しや農業資材等の確保に留意する。また、病虫害防除所の発生予察情報の収集に努める。

【麦類】

高温傾向により生育は平年並みからやや早まっており、今後も気温が高い傾向で推移する予報が出ていることから、出穂及び開花期がバラつく可能性がある。麦の生育状況を的確に把握し、生育ステージや生育量に応じて、開花期追肥を遅れずに実施する。また、病虫害防除所の発生予察情報等に留意し、黄斑病や赤かび病等の適期防除を行う。

【野菜】

- 1 高温傾向で推移することにより、曇天日が続くと軟弱徒長となることが懸念されることから、適正量の肥培管理を行う。
- 2 発生予察やほ場の観察により病虫害の発生動向の把握に努める。コナジラミ類、アザミウマ類、ハダニ類等の害虫は発生の早期化による大きな被害の発生が懸念されるので、早期発見、適期防除に努める。加えて、タマネギべと病の発生に注意し、防除の徹底、罹病した株の除去等ほ場の衛生管理に努める。
- 3 急激な冷え込みや凍霜害が懸念される場合は、必要に応じ、トンネル、寒冷紗、不織布の被覆等により凍霜害の被害回避を図る。

【果樹】

- 1 開花が早まっていることから、開花期から幼果期における降霜及び予期しない低温による凍霜害の発生が懸念されることから、防霜用資材の準備や防霜ファンの点検を早めに行う。
- 2 生育の前進による品種間の開花時期の不揃い、訪花昆虫の活動低下による受粉の不良等による結実不良が懸念されるため、人工授粉用の花粉の準備等を早めに行う。
- 3 病虫害の早期発生が懸念されるため、果樹園での発生状況や病虫害発生予察情報等に留意し、適時適切な防除に努める。また、罹病部位の除去等ほ場の衛生管理に努める。

【茶】

- 1 今後、高温傾向で推移すると萌芽が早進し、春先の低温による新芽の凍霜害の発生が懸念されるため、霜注意報等の気象情報に留意するとともに、新芽の生育状況を十分に把握し、生育状況に応じた適切な防霜ファンの稼働など必要な対応をとる。

また、防霜ファン等の防霜施設の状態は事前に十分点検し、必要があればメンテナンスを行うよう努める。特に、スプリンクラーを使用した散水氷結法により防霜を行う場合には、事前の点検やメンテナンスに加え、途中で散水が止まることのないよう必要な水量を確保する。

- 2 冬期の低温と今後の高温により、新芽（一番茶）の生育不揃い、新芽数の減少等による収量減や品質低下が懸念されるため、秋整枝を行わなかった茶園にあっては、樹勢状態を観察しながら、適切に春整枝を実施する。
- 3 害虫類の越冬数が多くなり発生の早期化も懸念されるため、茶園の観察により害虫の早期発見に努め、適切な防除を実施する。

【花き】

露地花きでは、高温により発芽や生育が早まることにより、春期の凍霜害が発生しやすくなることから、耐寒性の弱い品目についてはトンネル、寒冷紗、不織布等による被覆を実施する。

発生予察やほ場の観察により病害虫の発生動向の把握に努める。特に過湿状態の施設では、病害（うどんこ病、灰色かび病等）が発生しやすくなるため、施設の換気と早期防除に努める。また、日射量が増え、気温が上がると葉焼け症が発生しやすくなるため、遮光や換気等により、日照条件や気温・湿度の急激な変化を避ける。さらに、アブラムシ、ハダニ類等の病害虫の発生が早まるため、早期発見、早期防除を徹底する。

【施設園芸】

気温の上昇に伴い、ハウス内が高温になると、作物の生育が早まりやすいため、必要に応じて換気をするなど、温度管理を徹底する。また曇天日が続くようであれば、晴天日よりかん水量を減らし、作物の軟弱化を防ぐとともに予防的に薬剤の散布を実施する。なお、日中が晴天の場合は、夜間は放射冷却により気温がかなり低下することがあるため、ハウス内の温度確保に努める。さらに、アブラムシ、ハダニ等の病害虫の発生が早まるため、早期発見、早期防除を徹底する。

【畜産・飼料作物】

- 1 草地については、スプリングフラッシュ等による急激な草勢が見られることから、飼料作物の収穫作業や放牧の実施に際しては、牧草等の生育状況を踏まえ、適切な作業に努める。特に、今後高温が続くことにより、例年より作業時期が早まる可能性があることを考慮し、準備を進める。
- 2 土壌条件等により高温及び晴天の影響が大きく現れる地域では、土壌の保水力を向上させるため土壌改良資材の投入等を行うとともに、今後、播種を行う場合には、耐干性の優れた草種・品種の選定に努める。